

人権集会(12/2)を開きました!

世界人権デー(12月10日)を最終日とする一週間は、人権週間とされています。鳥小でも、人権学習の集中週間として、さまざまな学習を展開しています。人権集会では、学年代表の人権標語や、人権作文を皆で聞き合い、代表委員会が「いじめ防止」に向けての発表を行いました。

人権標語 学年代表作品

1年 小島 橙利	『だいじょうぶ ぼくはきみの みかただよ』
2年 小澤 碧空	『みんなの笑顔は ぼくのパワー』
3年 伊藤 杏心	『だいじょうぶ? そのひと言で すぐわれる』
4年 松本 晃継	『どうしたの その一言で 未来が変わる』
5年 大島ひなの	『あなたの心 わたしの心 一人一人を 大切に』
6年 松本 晴道	『言う前に よく考えて 「言葉は刃物」』



人権作文 学年代表作品

1年 飯塚 瑛南 『むしむしむらのなかまたちをみて』

さいしょは、カマジローくんが人にたよってばかりのゲンジくんにイライラしていました。それを見たアゲハ先生が「あい手の気もちになってみて。」といふことをおしえてくれました。それでもカマジローくんは「あい手の気もちになりたくない。」といっていました。でも、カマジローくんにもにがてなことはありました。さいごにみんなのとくいなことで力をあわせてぶじがっこうについたとき、みんなとくいなことにがてなことがあるから、いじめはいけないとおもいました。もしだれかがいじめられていたらじぶんでゆうきをもって、「だめだよ!」っていうようにしたいなとおもいます。そしてじぶんはいじめや人をきずつけることばなどをやったりいおうとしないでみんなえがおで気もちよくすごせるがっこうやクラスでいたいとおもっています!

2年 須藤 暖乃 『おじやる丸の ちっちゃいものの大きな力 を見て』

ありさんのおぼれている声がきこえて、ちっちゃいものクラブのみんながたすけたのがすばらしかったです。わたしだったら、手でありますをすくってたすけます。ありさんたちが、おじやるまるたちにたすけてもらったから、つぎは、ありさんたちがおやくにたてるかもしぬないと思ってくれました。ありさんが、土をどんどんほっておにの子たちはたすけられました。すばらしかったです。おにの子たちも、おじやるまるの「しゃく」をとったけど、おれいに「しゃく」をかえしてくれたので、おじやるまるは、うれしかったんだと思いました。

3年 太古前 理乃 『いつまでもなかよく』

道徳のべん強で人けんについて学びました。人けんとは、いじめや、わる口を言わないで、思いやりや、幸せなどの一人一人がもっているけん利だということがわかりました。じゅ業では、「くう としの」というお話を見ました。このお話は、ほごねこの「くう」と、ほご犬の「しの」が登場します。

「くう」と「しの」ははじめは、心があわなくてあまりよくありませんでした。そのあと、「くう」が「しの」にあまえたり、かまつたりしていくと「しの」はだんだんと「くう」となかよくなっています。

いきました。だけど「しの」は、年をとっていたため、だんだん動いたりするのが大へんになりました。それでも「くう」は、友達をやめずに、「しの」の手つだいをしました。ですが、やはり「しの」は死んでしまいました。「くう」はとてもさみしかったですが、「しの」の顔を思い出したりすると、うれしい気もちになったというお話をしました。わたしは、このお話を見て、「くう」が年をとった「しの」の手つだいをしているところをすごいなと思いました。だけど一ぱんすごいと思ったのは、前までのように動けなくとも「くう」は友だちをやめずに「しの」といたというところです。前のようにかまってくれなくても、いつしょにずっといたのです。これからわたしも「くう」のように、年をとった人や体がふべんな人の役に立てるように、手つだいなど人の役に立つことをしたいです。

4年 石塚 佑愛 『ハンセン病と家族の物語』

この話を見て、ハンセン病のつらさを知りました。ハンセン病になると、りょうよう所にとじこめられてしまいます。ハンセン病というだけできよりをおかれ、へんけんをもたれ、多くの人々がゆめをあきらめなければなりませんでした。家族もへんけんをもってせつしたかもしれません。でも、信じてよりそってくれた人もいたと思います。何より家族に会えない、今一番会いたい人に会えないというのは、とてもつらかったと思います。やっと出してもらえた時、さいばんがおきて法りつはなくなつたけれども、そこで亡くなった人も苦しんだ人もいたりしたので、このことを忘れず、ハンセン病の人達をさべつせず、みんなが苦しまない方法ができてうれしいです。お話を出てきた男の子も、ハンセン病ではないけれど、へんけんをもたれてきづついてきました。でも、ちゃんとハンセン病について学んであやまれたのはいいと思います。それをゆるした男の子もよく学んでいました。いつか自分も病気になるかもしれません。ほかの人がなってもさべつせず、ちゃんとした方法でやさしくせつしたいと思いました。

5年 鈴木 伶奈 『「めぐみ」を視聴して』

めぐみさんは北ちょうせんに行きたくなかったのに、むりやり北ちょうせんにつれていかれてかわいそうだと思いました。北ちょうせんで、らちされている17名のうち、5名は帰国できたのは良かったけど、そのうちの12名はまだ北ちょうせんにらちされています。この人たちは、今、北ちょうせんで何をしているのだろう、めぐみさんは、今、生きて北ちょうせんで何をしているのかと思いました。めぐみさんたち家族の幸せがうばわれてしまったのは、かわいそうだと思います。17名のうち、まだ帰国できていない人たちの家族の幸せもうばわれてしまいました。めぐみさんたちの家族と同じようにかわいそうだと思います。これから、登下校中にゆうかいには気をつけたいと思いました。人がさらわれるような現場を見たり、自分におこってしまったりしたら、どのような行動をとればよいかわかりません。あらかじめ、自分のこととして考えておきたいと思いました。

6年 丹羽 霽 『未来を背負って』

私たちは、友達と遊んだりゲームをしたり、おかしを食べたりできます。学校に行きたくなかったり、家でダラダラしたい日だってあります。しかし、それは病気の人からすると小さい子がお母さんにおもちゃを買ってもらえない時の2倍はわがままです。なのに私は、何気なくそんな一日をすごしています。動画を見ていて、「癩（らい）予防法」について気になりました。らい予防法により、ハンセン病患者は強制かくりされました。その上、病気で苦しんでいるのに、料理や畠仕事をさせられました。そして、その家族も、周囲の人達から、差別や偏見を受けていました。私はそのことを知り、とても心が痛みました。病気でつらい上に、家族とも会えないなんて、とても悲しいです。わがままが言える、学校で学べる、それはとても贅沢なことです。今日は何日だろう？と忘れることだってあります。ハンセン病に限らず、病気の人、病気だった人の未来を、私たちは背負わなければいけないと思います。病気の正しい知識を身につけ、差別や偏見をなくし、温かい社会をつくりたいです。そして、一日一日を精一杯生きたいです。

